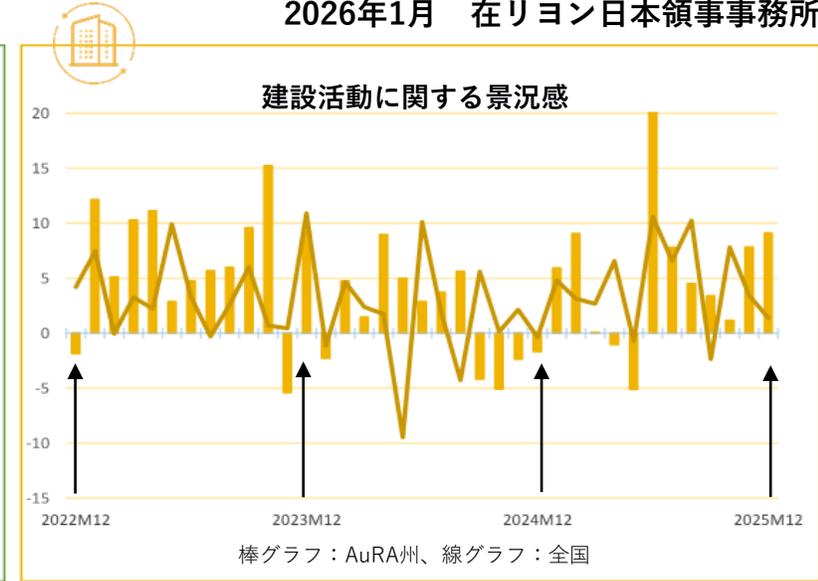
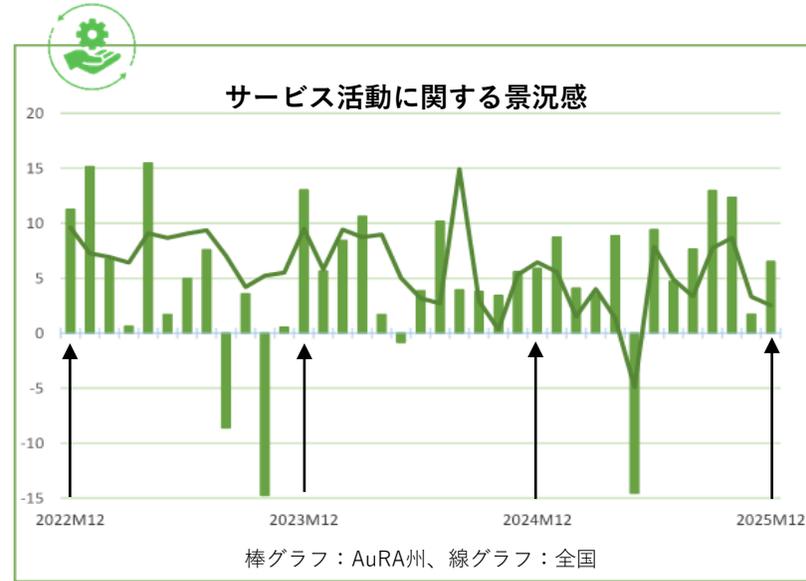
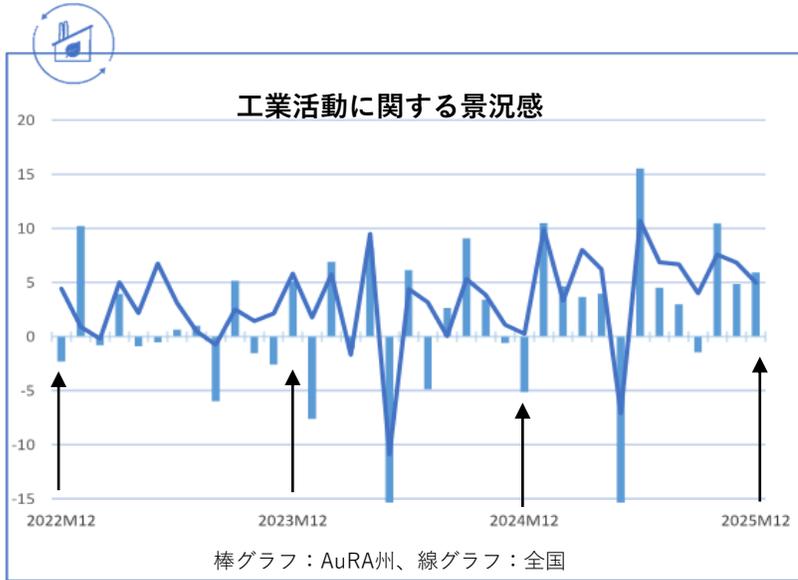


# オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ州における景況感調査（2025年12月）

2026年1月 在リヨン日本領事事務所



## ポイント

- 12月のAuRA州における景況感は、前月に続き好調を維持した。
- 12月の**工業部門**の景況感は、全国と同様に増加したが、業種によって大きな差が見られた。生産能力稼働率は回復を続け、2024年5月以来の最高水準に達した。価格は安定し、雇用はわずかに減少。受注残は徐々に回復しているが、依然として不十分と見られている。短期的には、工業活動はなんとか現状を維持するとみられる。
- **サービス部門**では、AuRA州の景況感は全国平均よりも力強い伸びとなり、特にこの地域への観光客の増加がこれを牽引した。雇用は安定しており、価格はわずかに上昇した。多くの不確実性が続く中で企業経営者は慎重な姿勢を崩さず、2026年1月の活動は安定すると予測している。
- **建設部門**では、2024年末の低迷期と比較すると、全国的には基礎工事と内装工事の両方で緩やかな伸びが見られる一方、AuRA州では大幅に活発化している。見積価格は下落傾向が続いている。固定費をカバーするために利益を犠牲にしても業務量の確保を優先する業者がいるためである。受注は、内装工事では若干回復したが、基礎工事では依然として明らかに不十分な状況であり、今後数週間は、活動が緩やかに成長するとみられている。公共事業は過去2連続四半期にわたる大幅な落ち込みの後、第4四半期は穏やかな天候に恵まれて回復したが、受注残は依然として低水準で、次の四半期には活動が減少すると予想されている。
- 現金流動性は、道路輸送、食品産業、輸送機器製造の各セクターを除き、工業部門及びサービス部門においては改善しているとみられる。

- フランス銀行がAuRA州の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2025年12月22日～1月7日）。
- 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。

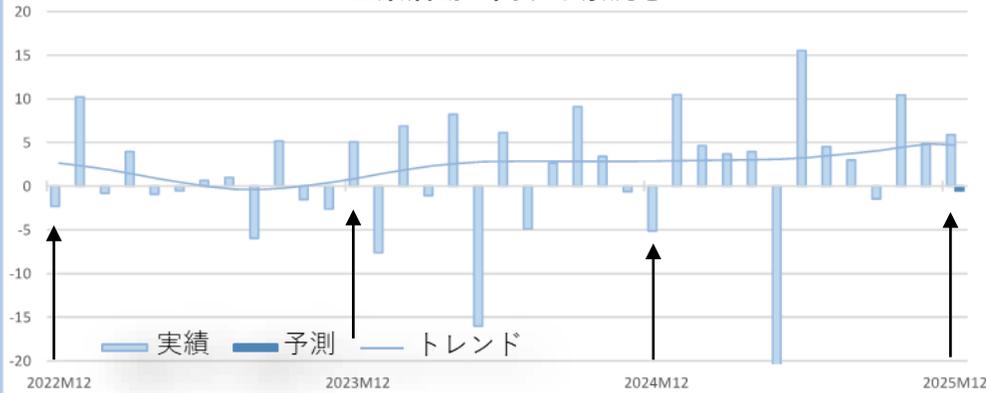
（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

# オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ州における景況感調査（2025年12月）

## ：実績、翌月の予測、トレンド



### 工業活動に関する景況感



12月の工業部門の景況感は更に伸長した。しかし、この陰でセクター毎には大きな差がみられる。木材・紙・段ボール、繊維・衣料・皮革、食品、機械・設備製造セクターは堅調な伸びを示した一方、金属、化学、製薬セクターでは、景況感が明らかに下落した。価格は安定し、雇用はわずかに減少した。受注は回復したが、企業経営者は依然として低水準とみている。今後の予測は慎重で、数週間はかろうじて活動が維持されるとの見通し。



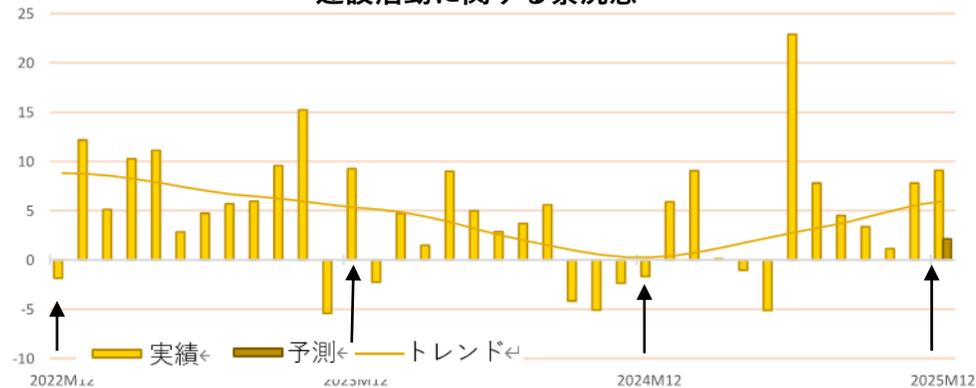
### サービス活動に関する景況感



商業サービス業は、11月に一時停滞した後、12月には伸びが加速した。この勢いは、道路輸送、宿泊・飲食、法律・会計の各セクターにおける活動増加によって支えられている。一方、IT及びエンジニアリング・技術調査セクターでは景況感が減退、人材派遣セクターでは横ばいが続いている。雇用はわずかに減少し、価格は引き上げが行われた。2026年1月の予測は慎重で、事業活動と雇用の減少が見込まれている。



### 建設活動に関する景況感



12月の建設業部門の景況感は、基礎工事と内装工事の両方で好調に推移し、大幅な価格下落があったものの、前年を上回る量の事業活動を記録した。内装工事では受注が若干回復したが、基礎工事では依然として明らかに不十分な状況。

「Ma Prim Renov（省エネ改修向け補助金）」制度の将来に関する不透明感が、大きな不安要素となっている。このような状況で、業界関係者は慎重な姿勢を崩さず、短期的には事業活動の伸びは小幅にとどまると予想している。過去2連続四半期にわたる大幅な落ち込みの後、第4四半期には、穏やかな天候に恵まれ、公共事業は回復したが、受注残は依然として低いと評価されており、次の四半期には事業が減少すると予想されている。